南伊豆町 ＆ 早稲田大学
地域連携ワークショップ 2023

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光・・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 「若者向けの施策」という**大学生が自分事化しやすいテーマ**で、地域の課題や解決策を考えることができます！
- **町長や住民の方々に、直接お話をお伺いする**貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。

テーマ

観光客から”関係人口”へ
若者が南伊豆に関わる施策を考えよう

南伊豆町は伊豆半島の最南端に位置する風光明媚な地域です。２月には早咲きの河津桜が咲き誇り、桜を眺めながら温泉につかるなど、観光を主要な産業としています。一方で、半島の先端に位置するため地理的に不便な面もあり、全国の過疎地域と同様に人口減少、少子高齢化が進み、1950 年代には 16,000 人だった人口も現在約 7,800 人にまで減少しています。

そこで、今回のワークショップでは、若者が南伊豆町に「観光」以外の活動に関わってみたい と思えるような施策を考えていただきます。町では、仕事をしながら地域と交流する制度（ふるさとワーキングホリデー）等を整備し、観光客から関係人口に繋がるような取組を推進していますが、今一歩、若い世代に響いていないのが現状です。早大生ならではの自由な発想で、そして何よりも大学生＝若者＝当事者（！）として南伊豆に関わりたいと思える提案をお待ちしております。

南伊豆町の魅力

伊豆半島最南端に位置する南伊豆町は、太平洋を三方に望み、美しい山々を背にした風光明媚な景勝地です。日本の渚 100 選に選ばれている「弓ヶ浜」や、景勝地として有名な「石廊崎」、有数の湧出量を誇る「下賀茂温泉」、世界ジオパークに認定された多数のジオサイトなど魅力的な観光スポットのほか、県内有数の水揚げ高を誇る「伊勢えび」をはじめとした、海山の豊富な資源に恵まれています。
また、年間の平均気温は約 17 度と年間を通じて温暖な土地となっています。

募集概要

募集期間	2023年12月1日（金）～12月17日（日）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	**原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと**
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	**事前説明会（オンライン）について【応募の際には必須参加】** 日程：12/6（水）、12/11（月）、12/15（金）12:30～12:55（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メールもしくは教育連携課 Web 上でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記3日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:55～13:10）も上記日程で実施します。 事前説明会参加後、**以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から応募ください** ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2023 春編」を検索 ③「地域連携ワークショップ 2023 春編応募フォーム」から「申請」をクリック ④ 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2023年12月27日（水）までにWasedaメール**にて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、南伊豆町内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 自己負担費用：往復交通費（自宅⇔現地集合場所）・宿泊費（フィールドワーク）・食費等 ＜交通費目安＞東京駅～伊豆急行駅片道 6,177円（特急/指定席/IC） **※フィールドワーク・最終報告会ともに、町より往復8,000円以内の交通費補助があります。** ＜宿泊先＞南伊豆ローカル×ローカル（相部屋）5,400円/泊 **※但し、後日大学より地域連携ワークショップ活動助成金として15,000円の補助があり、宿泊費・交通費の自己負担額は10,000円程度になる見込みです。** ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（損害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、**公欠扱いとはなりません。** ⑩ グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 ⑪ ワークショップでは連携先、大学がインスタグラム等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※新型コロナウイルス等の状況によって、プログラム内容等に変更が生じる場合があります
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2024 年 1/12（金） 16:30～19:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・自治体の課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明 ※授業等により欠席／遅刻／早退となる場合は応募フォームにてその旨お知らせください。
②	交流会 @早稲田大学	1/17（水） 17:00～19:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ※授業等により欠席／遅刻／早退となる場合は応募フォームにてその旨お知らせください。
③	事前調査期間	オリエンテーション ～2/12（月）	・南伊豆町やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・ヒアリングに関する事項（希望先、質問内容等）を検討し、1/26（金）までに自治体へ提出 ・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
④	現地調査前 オンラインヒアリング （@Zoom）	2/7（水） 2/8（木）	・事前調査をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
⑤	フィールドワーク @南伊豆町	2/13（火）～ 2/16（金） 【3 泊 4 日】	・南伊豆町内および該当施設などを訪問 ・町長をはじめ、町の関係者の方々へのヒアリングを実施 ・「みなみの桜となのはな祭り」への参加 【岡部町長懇談：2/13（火）15:30～16:30】
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	2/22（木） 10:00～17:00	・中間報告会に向けてグループワーク ※時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑦	中間報告会 @早稲田大学	2/27（火） 10:30～12:30	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
⑧	対面グループワーク @早稲田大学	3/4（月） 10:00～17:00	・中間報告会での指摘を踏まえてグループワーク ※時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑨	プレ報告会 @早稲田大学	3/8（金） 10:00～12:00	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
⑩	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ～3/14（木）	・中間／プレ報告会でのフィードバックをふまえたブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）
⑪	最終報告会 @南伊豆町	3/15（金） 13:00～15:00	・町長など自治体関係者や地域住民の方々に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 16:00 頃となります。

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

●「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）

●**インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）

●活動を進めていく中で**自分が得意としていることと苦手としていることもはっきりと判明**しました。1 ヶ月半課題と向き合うことで、今後自分を成長させるための手がかりを得ることができたと感じています。（人間科学部　2 年）

チームメンバーとの関わりを通して

●元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）**ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさ**を体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）

●意見を交わさなければ何も始まらないので否が応でも話さなければならない環境で、（中略）**それぞれ全く異なる視点から物事を分析している**ということがよくわかりました。（政治経済学部 2 年）

●あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

●自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）

●「地域振興」は地元の人が中心に行うものというイメージから、外部の人でもできる、**むしろ外部の人でなければできないこともある**というイメージに変わりました。（政治経済学部 2 年）